

「新型インフルエンザ」の報道に接して

「新型インフルエンザ」に対して、WHO はまだ「パンデミック」の可能性の高まりの警戒レベル「フェーズ5、6」ではないが「フェーズ4」を発表したこともあり、連日マスコミを賑わせている。

新型インフルエンザウイルスが世界規模で感染爆発、あるいは汎発流行する世界的な流行を「パンデミック」というが、先に当 HP で「『パンデミック』は、どの生命を救うかの問題でもある（HP「雑学 BN」マスコミ等コメント関係（IV） 2008.01.19.：参照）」を掲載したことがある。

日本政府も水際封じ込め対策として該当国から直接到着機内検疫等、また、「新型インフルエンザ」のワクチン製造の準備も進めるようであるが、この大量の人間が短時間に航空機で世界中を移動できる世だけに、「新型インフルエンザ」ウイルスの侵入を防げるかどうか……。

機内検疫は該当国から直接到着機に限られるようだし、地方空港では機内の検疫体制は整っていないとか。

また、感染とて発症にはウイルスの潜伏期間（約1週間）もあるだろうから、水際検疫で健康状態に問題なくてもそれで侵入をくい止めたとは云えないような気がする。

また、ワクチンに関しても、全国民分は短時間で一気に製造・準備できるはずもなく、先のHP掲載記事にも触れたが、万一毒性の強い「パンデミック」時のワクチンの投与順位はどうなるのかのコメント報道は一切ない。

幸いというか、今回の「新型インフルエンザ」の毒性は弱い（感染死亡率約0.1%）のでないかと現時点では推測されているよう。

もしそうだとしたら、今回の政府としての対応は、「パンデミック」用に準備していたマニュアルの実践とその検証にはなるだろうと思う。

それだけに、強い毒性・感染力が予想される鳥インフルエンザ（感染死亡率約10%）の「パンデミック」の時のワクチンの投与順位、治療順位の問題提起を国民に早々に行い、実際の時に大パニックを起こさないように、議論を重ねる時間があつた方がいいように思う。

今回はその問題提起のチャンスでもあるように思うのだが……。